

「瓦版」



2023. July. 1

在仙台カンボジア王国名誉領事館

No.15

医療と音楽を連携させて難病を支援する NPO 法人

「君とカタルシス」

現在、日本の国には「難病」に指定されている疾患が 338 あります。約 2 年前までは 333 でした。医療が進歩しても治せない病気は減らない上に、難病と闘う患者さんのことはあまり多くは知られていないのが現状です。

私は宮城県立こども病院の診療に 14 年関わらせていただいたことから、生まれつきの障害や、難病で闘病されるお子さんたちの診療に携わる機会が多くありました。発達の異常があって、「生涯立ち上がることは難しいだろう」と診断されるお子さんたちもいます。難病で治療に対して前向きになれない患者さんや、通院をギブアップしそうな親御さんを前にして医療の限界を感じたとき、ふと、自分が学んだもう一つの分野である音楽が役に立つかもしれない、と思いました。

出口が見えない暗くて長いトンネルに入ってしまったようなときに、光が来る方向を誰かが一緒に探してくれたら、という気持ちになります。もし、医学的な治療に限界があるとき、医療を超えて自分に何かができるとしたら、その光の道案内を「音楽」というアイテムでできるかもしれない、と考えました。

道案内のアイテムは何でもいいのかもしれませんが、たとえば、絵画や朗読、体操など、形やきっかけはどうであっても、医療と連携する一つの道具を考えたときに、私の場合は「音楽」をアイテムにしようと思いました。そして医学部と音大の両方で勉強したことを生かして、医療と音楽を連携させて難病を支援する NPO 法人「君とカタルシス」を立ち上げました。

「カタルシス」とは「心を浄化する、純粋にする」という意味の哲学用語です。2019 年 9 月に ALS 支援コンサートから始めて、2019 年 12 月に筋ジストロフィー支援コンサート、と進める中で、この支援を継続するサステナブルな活動にするには組織化することが必要と思い、NPO 法人として仙台市に申請して 2020 年 1 月 25 日に認可をいただきました。

医療と音楽を連携して難病を支援する NPO 法人「君とカタルシス」には 3 つの目標があります。1. 難病の方たちへ音楽で毎日のモチベーションを上げる精神的なサポート、2. コンサートや CD の収益を難病団体へ寄付する経済的なサポート、3. 健常な方たちへ、難病のことや難病と闘う方々のことを周知して、難病支援へ興味を持っていただく啓蒙活動、これら 3 つを柱として活動しています。

医師とピアニストを両立してコンサート活動することは、練習時間の確保が難しいですが、先の見えない暗いトンネルで道案内の光になれるように、という思いで深夜 3 時から早朝 6 時を練習に充てています。

約 2 か月に一度、難病のテーマを決めて、医学講話を交えながら、クラシック曲を中心にコンサートを開催しています。その中で、作詞作曲した曲を演奏する機会がありました。そのときに大きな反響をいただき、

今はオリジナル曲を取り入れてコンサートのプログラムを組むようになりました。

新型コロナの蔓延時期で制作に難渋しましたが、オリジナル曲 7 曲を収録した CD『～心を清爽にする音楽空間～ 君とカタルシス』を作成し、新聞記事に取り上げていただきました。

曲を作るときに心がけていることは「景色が見える音楽」、「現実の場所に居ながら、別の場所に



ちょっと行って、また戻ってくるような感覚になれる標題音楽」です。作曲をするようになったのは、宮城県立こども病院での診察中に、一人の患者さんが話してくれた「夢の中の出来事」がきっかけでした。その患者さんは肢体不自由があり、生まれてから一度も立ち上がったことのない小学生の患者さんで、診察中の雑談で、「きのう僕が見た夢のおはなし」をしてくれました。

「僕、夢の中で歩いたんだよ。広い草原を思いっきり歩いたんだ。でもね、夢が覚めたらね…」

(次に続くのは、「がっかりした」という言葉かな…)と予想したのとは反対に、「ほっとしたんだ。僕ね、車椅子の上にいる、ほっとしたんだ。」と、話してくれました。このときに、(音楽で空想の世界に入っても、戻った現実との葛藤はないのかもしれない)、と背中を押されたように感じました。

難病審査委員を務める公的な業務を通して、医師の立場からの視点と、音楽の表現者としての視点を密接に連携させることを考えてコンサートを企画して開催しています。医学と音楽は全く別の世界のように思われがちですが、紀元前 11 世紀にユダヤの王様の病気を和らげるためにハーブが演奏された記録が残っています。古代では病気が治るように祈禱する「祈り」の言葉に音階が加わり、ピタゴラスやプラトンにより音楽哲学が始まり、これがクラシック音楽の源流となっていきます。ルネサンス以降に医学が急速に発展を遂げて、音楽は医学と切り離されて「芸術としての音楽」に分化していきますが、ルーツは同じです。

コンサートでの演奏中に、この両者の共通性、たとえば、音楽が気持ちを鼓舞したり、癒したり、という精神面への効果を聴衆のリアクションから感じる場面が多くあります。終演後に聴衆の方々が会場のドアを後にされる時、(今日は心が爽やかになった)と笑顔になっていただける音楽空間を、これからも作っていききたいと思います。

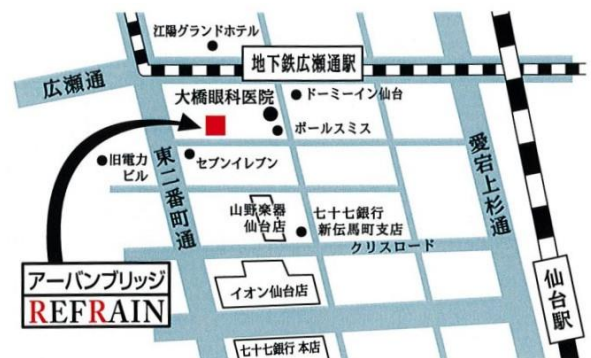


コンサート、CDの販売の収益は宮城県患者家族連絡協議会へ寄付しています。NPO法人「君とカタルシス」の活動を一人でも多くの方に知っていただき、支援に関心を持っていただく上で、今回「瓦版」の貴重な紙面をいただきましたこと、在仙台カンボジア王国名誉領事館、名誉領事の田井 進様、同秘書官の辺見千恵子様に心から感謝申し上げます。

当 NPO 法人のもうひとつの支援先、児童養護施設のこどもたちへ、「弾いて誰かのためになるチャリティストリートピアノ」を7月29日、30日、8月6～8日に開催いたします。今後の詳しいコンサート情報は当法人の HP (<https://www.catharsis-with-you.jp/>)、コンサートの拠点としておりますピアノサロン REFRAIN: ルフランの HP (<https://www.refrain-refrain.com/>)をご覧くださいましたら幸いです。この瓦版が橋渡しをしてくださって、カタルシスコンサートでの新たな出会いや、たくさんの笑顔に繋がることを期待しております。



大橋記念
薬師堂眼科クリニック 院長
NPO 法人 君とカタルシス 代表
山口 慶子





伊達政宗公騎馬像

仙台城跡（青葉城）は、伊達家 62 万石の居城でした。東と南が断崖になった高台の地にありました。今はその面影は石垣や櫓などを残すのみとなっていますが、仙台市を一望できる場所です。騎馬像の後ろに毎年咲く桜は、市民を見守っています。

青葉城へは、電車や自転車で行くのも良いですが、仙台駅前から発着している仙台市観光シティループバス「るーぷる仙台」が便利です。瑞宝殿や大崎八幡神社など、仙台市内の観光名所を一度に巡ることができます。ぜひお気に入りの春の景色を見つけてください。

仙台の夏といえば、七夕です。日本三大七夕まつりのひとつで、例年 8 月 7 日前後に三日間行われます。伊達政宗公の時代から続く、東北を代表する夏祭りです。200 万人以上がこの期間に集まります。

吹き流しは、企業や団体の方々が趣向を凝らしています。見上げるほど大きな吹き流しが道いっぱいに連なっている様子は壮観です。吹き流しは 5 本ワンセットで飾るのが習わしで、かつてはその豪華さを競いました。

前夜祭となる仙台七夕花火と合わせて、東北の夏の風情をお楽しみください。



仙台市中心部から車で約 1 時間ほどの場所にある、定義如来西方寺。地元の方には「定義さん」と呼ばれ親しまれています。平清盛の家臣、平貞盛ゆかりの寺院です。ご本尊は、平和祈願の阿弥陀如来様。縁結びにご利益があり、広々とした境内には美しい庭園や五重塔が配置され、門前町では三角油揚げが有名です。周囲の山々とともに、四季折々の風景をゆっくり眺めることができます。



宮城県仙台市県庁前の銀杏並木は、黄色く色づいた姿も見事ですが、雪景色になると水墨画のような風情の美しい装いとなります。市民の生活道路として日々何気なく利用されている場所なので見落としがちですが、人通りが途切れた時の静寂は別世界に紛れ込んだ感覚になります。

仙台は東北地方の中では雪の少ない場所ですが、路面が凍結している所があるので観光の際にはご注意ください。